

第2回 塩竈市長期総合計画審議会の概要

日 時 平成21年9月10日(木) 15:00~17:00
場 所 塩竈市公民館【東玉川町】2階 大会議室
出席委員 大滝委員、斎藤(善)委員、水野委員、太田委員、馬場委員、狭間委員、土井委員、小野委員、
今野委員、北村委員、横山委員、板橋委員、齋藤(廣)委員、石田委員、阿部(邦)委員、
庄子委員、松戸委員、柴田委員、佐々木委員
欠席委員 6名
塩 竈 市 長期総合計画策定本部委員(副市長、教育長、各部長)
事 務 局 総務部政策課
司 会 政策調整監

1. 開会

2. 委嘱状交付

前回の会議を欠席された委員に委嘱状を交付。

3. 審議事項

第4次長期総合計画(第1編、第2編、第5編)の総括を実施。第3編と第4編については次回に審議を予定。事務局から、総括について説明し、委員の質疑応答。

第1編

【消防防災体制】

(委 員) 消防防災体制の評価は、自主防災組織が55町内会で結成されていることから「3」で概ね達成できたという評価ですが、市内に町内会はいくつあるのでしょうか。

(本部長) 町内会は全部で167です。自主防災組織の組織率は世帯割合で50%以上ですが、町内会割合では30%程度です。町内会の高齢化の状況もあり、急激に上昇するのは困難ですが、全体の100%になるまで取り組んでまいります。

(委 員) 町内会などでの防災訓練の実施状況が分かりません。地域に密着した体制が必要でありますので、防災訓練の効果や今後の方針などをお聞かせください。

(委 員) お尋ねの防災体制については、町内会で防災対策協議会を組織する予定です。また、各町内会で年1回程度の防災訓練を実施しているなど、防災分野では努力していますので、その点では心配ないと考えます。

【子育て支援】

(委 員) 子育て支援について、待機児童のゼロは子どもが減少して、達成できたということなのでしょうか。また、今後の動向をどのように予測していますか。

(本部長) 待機児童ゼロの要因は、民間保育所の定数増加などもあります。また、「のびのび塩竈っ子プラン」策定に併せ推計しています。少子化で児童数は減少傾向ですが、女性の社会進出により保育需要は増加傾向です。待機児童について、受入体制も含め計画の中で検討してまいります。

【障害者支援】

(委 員) 障害者支援について、実際の利用者の声を聴取した上で評価が「3」となっているのか。

(本部長) 障害者プラン策定時に市だけの評価ではなく、本人や関係者からヒアリングした上で取りまとめ、反映しております。

【健康づくり】

(委 員) 高齢化の問題について、老人クラブなどに所属され積極的な方は活動されますが、そうでない方

は自宅にこもりがちになる。介護保険や健康づくりの観点からすると重要な課題です。

- (委員)健康づくりについて、達成できたと評価が出ています。がん検診など大きな成果ですが、実態がよく分かりません。市民に対しデータの開示や広報を強化していくことが大事です。関連して、ダンベル体操や健康増進委員、食生活推進委員の活動についてさらにPRしていくべきです。

【地域医療体制の充実】

- (委員)医療体制の充実の評価が2と低評価ですが、その原因についてお願いします。
- (事務局)救急診療体制が市民の需要が高いにもかかわらず、不十分ということで辛い評価をしました。
- (委員)もう少し市立病院の宣伝ができないか。市立病院の知名度向上をPRしていくことが必要では、医師会との関連もあり、今まではあまり宣伝していなかったのでは。
- (委員)委員の指摘について、昔は病床を持っていた病院があったので、そう事例もあったかと考えますが、30年近く前の昔の話です。実際に病床をもっている診療所というのは塩竈市にありません。市立病院は、医師達の頼る病床を持っている唯一の病院であります。
- (委員)市立病院の負債を解消する手立てを何とか構築していく必要があります。
- (委員)現在、医師が地方の病院に来られないなど医師不足が問題です。そのため、市立病院は200近くの病床を160までに下げて経営改善に努めています。また、入院患者が仙台市に流出しています。二次医療圏の問題があり、塩竈管内で完結するのは難しい状況です。市立病院には頑張ってもらいたいと考えております。
- (委員)所属団体で高齢者の健康づくりの活動をしており、市立病院の赤字を憂慮しています。健康で長生きするために地域の医療体制は最重要です。また、市立病院がセミナーを毎月開催しておりますが、若者や男性の参加者が少なく、多いのは高齢者の女性ということは課題です。さらに広報に努め多くの市民が参加するように。市立病院の経営改善は、良い方向であると考えます。
- (本部長)経営改革プランを作成し、収支均衡を目指しております。病院のPR不足の指摘もあり、市民の理解が先決であり、今年の2月から毎月1回公開セミナーを開催しています。医師から医療の状況、改善の内容などを説明しています。9月27日(日)の9時から開催しますので、委員にも出席いただければと考えております。
- 改革プランの取り組みで、第1四半期は目標を達成しました。病床利用率も95%を超えています。今後は経常黒字を目指し、PRに関しては広報誌、ホームページなどを一層活用します。

【地域活動・コミュニティー】

- (委員)防災訓練などでは、高齢者は多いが、若者の参加が少なく、町内会の活動が低調になっております。若者がNPOやボランティアなどの活動では活発ですが、町内会には積極的でない状況を懸念しています。市民として行政だけに頼らず、自ら活動する気構えも大事と考えます。
- (会長)町内会、コミュニティー活動に若者が参加しないという大きな問題の指摘がありました。それは塩竈市だけでなく、他地域でも同様です。若い層が地域、町内会、コミュニティーに参加し、様々な活動をどう推進していくかは計画の中に取り込む必要があります。その点について事務局での考えがあればお願いします。
- (本部長)町内会などの市民活動などを推進する部署があります。活動を盛り上げるのが大きな課題です。長期総合計画策定の過程で若者、高齢者、男性、女性の意見をまとめていきます。
- (委員)若者が集まらないという話ですが、活動していないということではありません。若者が中心となり、活発な事業を展開していることも事実です。なぜ集まらないかという疑問を考える必要があります。本来は活動的な若者たちがそのことにどう考え、感じているのかが課題です。
- (会長)この課題については、今後審議会委員の中でも議論していきます。

第2編

【学校教育】

- (委員) 学力向上だけが議論の前提ではありませんが、学校教育についてです。学力テストの中で、塩竈市は上向き加減にあるのではと考えております。人口減少が、今後の総活のなかでキーワードになると考えます。学力向上、あるいは教育について市の方針が子育て世代の若い方々に受け入れられなかったことが人口減少の一因になっているのでは。その意味では、学力向上の分野での評価が3、概ね達成できたという評価はいかがなものでしょうか。
- (本部長) 学力は県平均より下ですが、学力向上プランを策定し、学習習慣化や教育指導をしています。今年度、指導補助教員を配置し、各小学校で算数の少人数指導を実施して、習熟度別授業を実施しています。今年度の結果は、県、国の平均を上回る学校が増加していますので、国平均を上回るように各学校頑張っております。また、保護者や地域の協力を得て、昨年度は中学校、今年度は学校ごとに実情を踏まえサマースクールを実施し、昨年千人で今年は延5千人の参加でした。児童生徒も懸命に学習しておりました。また、小学校4年生以下の各学校希望者5人が浦戸諸島で一泊の合宿をしました。最重要課題として、地域の中での学力向上計画を実施していきます。
- (委員) 学力不足は否定できない面です。しかし、平均学力以下なので駄目とは言えません。子どもたちの教育のどこに力を重点的に入れているのか。学力がそれとも感性豊かな子ども、どちらに軸足を置くのか。塩竈市は、生涯学習や社会教育に関してレベルが高い内容を提供しています。良いところを伸ばす方向を実施し、浸透させることが課題であり、審議会での議論が大事です。
- (委員) 子育て世代は、まちの教育などを調査し、居住地を選択すると思います。そういう意味で、塩竈の教育に魅力に欠けた面があったのではないのでしょうか。今後、総括をしっかりと改めていけばよいと考えます。
- (会長) これからどのように考えていくのか、総合計画にどう反映させるか、大事な課題であります。
- (委員) 塩竈地区の児童生徒は、体格は良いが体力がない。また、10%近くが肥満ということで、スポーツの習慣化や食育について今から解決に向けた取り組みをしておくべき課題です。
- (本部長) 昨年より栄養教育員制度を立ち上げ、食育教育を各学校に波及させております。また、今の児童生徒はあまり遊ばなくなっており、休み時間に教師と一緒に遊ぶ取り組みも実施しています。生涯スポーツについては、青空スポーツプラン計画を早急に取りまとめたいと思います。
- (委員) 関連して、社会教育事業について現在どのようなものを実施していますか。
- (本部長) 勤労青少年を対象に一般教養の習得の講座を開設、支援しています。また、塩竈フォトフェスティバルの写真イベントについては大学生を中心に高校生も参加しています。スポーツでも様々な参加をいただいており、それらの活動を通して社会参加意識の醸成とのきっかけとして取り組んでおります。

第5編

【広域行政】

- (委員) 広域行政のさらなる推進が挙げられていますが、第4次計画の総括としては、塩竈市は合併の推進をしたのですが、上手くいかなかったという認識でよいのでしょうか。
- (事務局) 合併は塩釜地区広域行政連絡協議会で議論してきましたが、各市町の考え方の違いで進展しませんでした。引き続き広域行政の推進の議論を拡大していきます。
- (委員) その総括では意味が分かりづらいです。市の合併への取り組みはどういうものだったのですか。
- (本部長) 市として合併推進の立場で周辺市町に働きかけをしましたが、財政状況への懸念が表明され、自主運営の方向が示されていきました。そのため、合併の具体的な協議に進めなかったことから、広域連携や広域行政の推進を課題としております。
- 本年4月に地方制度調査会から、従来の合併が地方振興に寄与したかという疑問が出されています。今後の国の動きは不明ですが、仮に合併したのであれば、合理的運営ができると考えており

ます。合理的運営を合併しなくて実行することが、目指すべきものです。自治体の独自性を確保しながら、共同でやれるものはやる。そこに広域性を求めていくことで、広域行政のさらなる推進としております

- (委員) 合併して、良いこと悪いこともあったという問題ではありません。現状では、行政運営が厳しいものになります。合併せず、独自でやった方が良いという考えがあれば結構ですが、塩竈市は地域のリーダーとして市立病院を含めけん引してきた。行政コストの問題を考えると、地方への権限委譲という流れは不可避です。そういう中で、塩竈市が6万の人口で全ての受け皿になった場合に行政負担が増大します。人口規模が15万から20万程度の運営が良いと考えております。
- (委員) 合併については、少々否定的です。自治体間で補完しあえば良いと考えています。時代に応じて必要性があるものは広域行政を推進することで、塩竈市はそのままであって欲しい。

【推計人口】

- (委員) 第4次計画策定の際、平成22年度で63,000の人口推計でしたが、現実には58,000人です。少子高齢化が進んでいく中、経済活性化を推進するにあたり、人口減少は市政運営に大きな影響を与えます。現時点での将来10年後の人口推計を伺います。
- (事務局) 計画時63,000人、現在58,097人で目標に達しませんでした。人口問題研究所での人口は、平成22年度56,755人、平成32年は50,491人の推計であり非常に厳しいものです。今後、人口を改めて分析し、就労の場の確保や子育て支援をしながら推計します。現時点では、委員に示せる段階ではないことを理解願います。
- (会長) 計画と含めて検討していきます。10年後の人口は約5万人が一応の予測ですが。
- (委員) なぜ63,000人の目標が現在約58,000人なのか。人口減少の理由を明確にするべきです。第4次計画策定の際に人口設定の議論があったが、既に人口流出が始まっており、コンサルタントの推定では60,000人でした。どのような判断で当時は63,000人にしたのでしょうか。
- (事務局) 指摘の通り60,000人でしたが、庁内で協議し目標を高く掲げる観点から63,000人となった経過です。しかし、平成7年をピークに減少傾向で、子育て世代がその時点で減少していました。原因としては、就労の場所が無くなってきており、それで日本全体より早く人口減少が始まってしまいました。推計人口とそれを達成するための施策や計画を皆さんで議論をお願いします。
- (会長) 広域行政や合併について、第5次計画策定にあたり市のスタンスはどうか。
- (本部長) 先ほどは、経過と結果を回答いたしました。今後、意向調査や審議会や懇談会の中で皆さんの意見をいただくことが基本的なスタンスです。
- (委員) 高い目標としての推定人口ですが、計画策定の段階で減少理由は分析されていた訳であり、人口増加の方策を講じてきたのか。計画に対する施策を講じなければ、計画策定の意味が薄れます。
- (事務局) 人口減少に対し、子育て支援や企業誘致による雇用確保などに取り組んできました。日本全体で減少が始まっており、塩竈市だけで増加を図るのが非常に困難です。その分を交流人口の増加で補おうとしております。
- (会長) 人口減少に対する施策は、今後の計画でも実施していくものです。3年程度で達成度を測り、その事業などの見直しは行っていますか。
- (事務局) 4次計画に対し実施計画を見直しながら事業を推進しています。ただし、人口目標に対しての見直しは行っていませんでした。厳しい状況ですが、人口増加策を審議会や市民懇談会、アンケート等を参考にしながら進めてまいります。
- (委員) 総括をしっかりとできれば、人口減少が少しは弱まると期待しています。今後の推計ですが、現在は58,000人であり、55,000人程度と推定しています。若い世代、20代から30代の流出が大きい。これまで大きく減少していますが、さらに大きく減っていた可能性もあります。そういうことで、4次計画の成果は今から出てくるのではないかと考えます。人口減少は続くかもしれないが、成果が傾向を少し弱めた働きもあるのではないかと期待しています。
- (会長) 計画を策定するにあたり非常に重要なテーマです。人口減少の原因や広域行政や合併をどう考え

ていくかは関連性がある事項です。また、人口減少の中で市民と行政の協働は、避けて通れない課題であり、出来なければ市を全体として支えていくことは困難です。様々な課題が関連して大きな問題になっており、審議会で議論や整理して、計画を策定していくことが大切です。

【市民懇談会】

(事務局) 市民懇談会の状況について分科会の会長さんからご報告願います。【別紙 資料2 参照】

(会長) 市民懇談会が活発に動いています。計画の策定に際して、市民の声や言葉をそのまま計画の中に盛り込むようにする必要があります。格調高い、格好いい言葉に置き換えるのではなく、生の声をそのまま生かすことが大事です。また、最終的には市民の皆さんが読んで面白いと思うように、読んでいただけることが大事です。

塩竈市民がつくり、市民の大切な言葉をぜひ総合計画の中で生かしていきたいと考えます。事務局はもとより、市民懇談会の会長さんもよろしく願います。

【市民意向調査】

(事務局) 市民意向調査の状況について報告。【別紙 資料1 参照】

対象者 18歳以上の無作為抽出2000人(8月13日発送)

回収状況 9月7日現在で820通

回収率 回収率40%